

飯山市美術館運営協議会 会議録

- 開催日 平成 29 年 6 月 2 日（金）午後 3 時 30 分～5 時
- 開催場所 飯山市公民館 101 会議室
- 参集者 委員：吉越委員 千坂委員 上海委員 廣委員 森崎委員 堀川委員 ※2 名欠席
市側：長瀬教育長 栗原美術館長 井端美術館係長 木村

1 開会

2 辞令交付

教育長から 6 名の委員に辞令交付

3 あいさつ

教育長：今年も美術館でいろいろな企画が行われる。特に今年は正受老人と白隠禅師の展覧会を予定しているが、十数年前に開催した白隠展と同じくらいの規模になると思われる。

規模の小さい施設だがいろいろな企画を行い、地域にとって大事な美術館になるよう活動を続けていければと考えているので、皆さまのお力添えをお願いしたい。

4 自己紹介

5 会長選出

会長：吉越委員、会長職務代理：千坂委員に決定

6 会長、会長職務代理あいさつ

会長：飯山の美術館は小さな施設だが、いかに運営していくかが大事。少子化が進んでいるが、小中学生に足を運んでもらえるような美術館になってもらえるとうれしい。

会長職務代理：会長を補佐してしっかり努めたい。

7 協議事項

(1) 平成 28 年度事業について（報告）

事務局：（資料のとおり説明）

委員：せっかくいろいろな企画が行われているが、周知が足りないようにも感じる。どのような方法が良いかはわからないが、もっと皆が知るような努力は必要ではないかと思う。

飯山の灯籠祭りが夜景遺産に選ばれた。灯籠は一夜限りが良いのかもしれないが、美術館の電気を消して並べることができないか。

新幹線が開業したが、例えば新幹線を話題にした小学生の絵画展などは出来ないか。あるいは高橋まゆみ人形館があるが、小学生が爺ちゃん婆ちゃんを描いたクロッキー展はできないか。

市民に身近に感じてもらえるような企画を。

また、広報では、活性化センターも活用できるのはないか。

事務局：各活性化センターからのお知らせは公民館主事が作っている。そういう身近なものに入れてもらえれば、皆さんが見るものなので徐々に考えていきたい。

連携と言うことでは、学びのエリアとしての 6 館を紹介した地図外国人向けの地図を作るなどして、「なちゅら」から公民館、そして美術館などへいう流れをつくりたいと考えている。

(2) 平成 29 年度事業計画（案）について

事務局：（資料のとおり説明）

委員：ワークショップについて、飯山高校で同じような内容の公開講座を考えている。土から 50 色くらいの絵具を作るというもの。水彩絵の具や油絵の具、クレヨンも作ろうと。

夏休みに小学校上級生を対象とした公開講座をと考えているが、美術館とタイアップできれば幅広い取り組みが出来るかもしれない。

事務局：公民館の夏休み体験教室は内容や日時が決まっているので、それとは別の部分でよろしくお願ひしたい。

委員：作品は作品展の本番にならないと見れないので、事前に 2、3 点でも飾って、今度このような展示を行うという手法で市民に知らしめる方法もあると思う。写真でも良いので市役所の入口や「なちゅら」の一部にそのように出来ないか。

今度、（飯山市芸術文化協会）で活用することになったぶらり広場の土蔵（ぎやらりい白銀）でプレ紹介するようなことをお勧めしたい。

事務局：作品そのものはケースがないと飾れないなど、別な場所で展示するのは難しい。どのようなかたちが可能かを考えてということになる。

(3) 平成 30 年度以降の企画展（案）について

事務局：（資料が抜けていたため口頭で説明したが、説明後、出席者に資料を配布した。説明内容は資料のとおり。）

事務局：例えば、来年度の展覧会の内容は、今の段階で決まっていなければ開催することが難しい。ご提案をいただいた内容を反映できるのは、2 年後やそれ以降になってしまうことも考えられるので、何かあればご提案をいただきたい。

委員：活動の内容は濃いと思う。しかし一方で、美術館は足が向きにくい場所、距離を感じる場所になりがち。内容も大事だが、小学生や中学生が具体的にどれだけ美術館に足を運んだかが大きいような気がする。

例えば使用料はどうするのかなど問題はいろいろあると思うが、幼・小・中・高の文化祭や合同作品展とか。あるいはお年寄りの施設で、折り紙や絵具を塗った作品が壁に貼りつけてある。芸術的にどうかということではなくほほえましい、喜ばしいという気がする。

隙間の場所で良いから、子どもやお年寄りに開放できるような企画があっても良いのではないかと思う。レベルが高いことも大事だが、そういう面も必要でないか。

会長：その点では、以前、2 階ギャラリーを無料で開放できないかと言う話が出たこともあったが、今は難しいということになっている。

しかし、たいていの美術館は一角を市民に開放しているので、長い目でみて検討していくことは大事と思うので考えてもらいたい。

委員：例えば、五郷研修館に来ているような作家の制作過程を公開してもらえるような機会をもってもらいたい。

個展を開催しながら作品ができる過程をライブペインティングみたいにやってもらえると、作品に対する親しみがわくと思う。そういう企画があっても良いのではないか。

会長：2 階は伝統産業会館だが、美術館と一緒に何かできないか。

委員：美術館の企画とタイアップしたかたちがあればやり易いとは思ふ。例えば、和紙作家の齋藤

一郎先生の企画展の場合には、内山紙とタイアップさせるようなこともあると思う。

今回の正受老人も飯山仏壇の歴史などが絡められればと思うし、漆器とか彫金とか工芸作家の展示であれば何かを絡められるかもしれない。

会長：連携し合えることをお互い考えていくことも必要だと思う。

(4) その他

特になし

8 その他

特になし

9 閉会